

大腸内視鏡  
新時代

# 健康保険で受けられる高水準・ 痛くない大腸内視鏡検査

ららぽーと横浜クリニック  
おたしたちや  
大西達也 院長

大腸がんはこの50年間、増加の一途をたどっている。2006年には4万1056人が死亡（がん死因の第3位）男性4位、女性1位）しているが、大腸がんは早期に発見・治療すれば95%近くまで治すことができる。従って、大腸がんを早期発見する検査は重要だ。検査の中で最も信頼度が高いのは大腸内視鏡検査だが、「痛くて失敗もある」ことが難点だった。しかし最近「非麻酔で痛くない」大腸内視鏡検査を行う施設が評判を呼んでいる。



東京大学医学部大学院卒業、医学博士。「東大附属病院の大腸肛門外科」に在籍した9年間は「うまくならない心」で寝る間も惜しんで大腸内視鏡の訓練を積みました。（大西達也院長）



特殊光と色素を併用した高解像度の検査を行う

通常の胃腸科クリニックが1日に行う内視鏡検査は平均4件程度といわれますが、こちらの現状は？  
大西 当院は昨年3月15日、「ららぽーと横浜」のオープンと同時に開院したので、まだ1年経っていません。胃腸科専門診療の他に、一般診療や日帰り手術も行っています。1日に約100人の患者さんが来院しています。このうち、約17件が内視鏡検査および内視鏡治療です。今のペースだと、内視鏡検

査は年間約5000件になります。この数字は医師1人が一般診療も並行して行う医療機関の内視鏡検査数としては、類をみない件数であると自負しています。  
——手掛けている大腸内視鏡の検査法を紹介してください。  
大西 当院の大腸内視鏡挿入法は、「完全無送気・軸保持（むそうき・じくほじ）直線的挿入法」といいます。国内で最も柔らかい（＝最も患者さんに優しい）内視鏡を用いて、空気を全く入れずにほぼ一直線に大腸の一番奥（盲腸）まで到達させるので、空気を入れて挿入する従来法に比べて、おなか張らず、苦痛がありません。さらに当院では、患者さんと会話ができる（意識下）程度の軽い鎮静剤を使用することで、「ほとんど痛みのない検査」を実現し

ています。以前、他院で内視鏡検査の際に痛みで検査を失敗した（盲腸まで到達しなかった）人も、今のところ全員が当院では検査を成功しています。

——大腸検査における理念はどのようなものですか。

大西 「最高に優しい医療は、最高の技術から成る」です。この究極ともいえる挿入法を習得するには、最低でも5000件は経験しないとコツがつかめないといわれるほどハイレベルです（消化器内視鏡専門医の認定基準は100件）。さらに精通するためには、経験以外にも多くの専門的なノウハウが必要ですので、この方法

で大腸内視鏡検査を行える内視鏡施設は世界的にもほとんどありません。

大腸がんやポリープは無症状が特徴なので、大腸がんの予防のためには定期的な内視鏡検査を受けることが必須です。当院では内視鏡検査で大腸ポリープや前がん病変、大腸がんが見つければ、その場で内視鏡切除に切り替え、日帰り治療を行っています。実際、当院は昨年約30例の大腸がんを発見・治療しました。当院の大腸内視鏡検査は保険診療で受けられるので、検査の苦痛は心配せず、気軽に相談していただければと思います。文・中野不可思



ららぽーとの北玄関に面するクリニック外観

## ららぽーと横浜クリニック

〒224-0053  
横浜市都筑区池辺町4035-1  
TEL.045-929-5082 FAX.045-929-5083  
http://lala-clinic.jp

【診療科目】胃腸科・肛門科・内科・アレルギー科・皮膚科  
【診療時間】平日9:00～13:00 / 17:00～19:00  
土・日・祝 9:00～13:00 / 14:00～17:00  
【休診日】火曜日

※厚生労働省平成18年人口動態統計